



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月12日

上場会社名 株式会社うるる 上場取引所 東
 コード番号 3979 URL <https://www.uluru.biz/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星 知也
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 Co-CFO (氏名) 内丸 泰昭 (TEL) 03 (6221) 3069
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA(※)		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,062	14.8	△27	—	△47	—	△40	—	△47	—
2022年3月期第1四半期	925	45.6	37	397.8	20	—	30	124.8	△9	—

(※) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 △47百万円(—%) 2022年3月期第1四半期 △9百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△6.84	—
2022年3月期第1四半期	△1.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	4,219	2,081	49.3
2022年3月期	4,338	2,128	49.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 2,081百万円 2022年3月期 2,128百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	4,850	20.4	50	—	△50	—	△60	—	△90	—

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は年次での業務管理を行っているため、第2四半期(累計)の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	6,913,000株	2022年3月期	6,908,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	256株	2022年3月期	256株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	6,907,798株	2022年3月期1Q	6,850,744株

(注) 当社は、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「期末発行済株式数」「期末自己株式数」および「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.6「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

平成30年版「情報通信白書」によると、日本の生産年齢人口は2017年から2040年にかけて約1,600万人減少することが推計されており、労働力不足による経済規模の縮小、国際競争力の低下といった社会的・経済的な課題が深刻化することが危惧されております。そのような状況の中、当社グループはこれまで様々な領域において労働力の代替ソリューションとなる事業をSaaSを中心に複数展開してまいりました。

2022年4月には、コーポレートビジョンを「労働力不足を解決し 人と企業を豊かに」へと刷新し、今後は「労働力不足解決のリーディングカンパニー」を目指し、上記社会課題の解決に一層向き合っております

当社グループは、「在宅ワークのスタンダード化」を目指して、2003年11月に企業のアウトソーシング・ニーズの受け皿となるBPO (Business Process Outsourcing) 事業を開始いたしました。その後、受託する業務量の増加に伴うニーズの多様化を受け、より効率的に運営を行うことを目的として2007年2月に当社グループを経由せずにクライアントと主に主婦のクラウドワーカーの業務受発注をマッチングさせるクラウドソーシング事業「シュフテイ」を開始。さらに、BPO事業で培われたノウハウとクラウドソーシング事業が持つリソースを掛け合わせることで、当社グループ自身がクラウドワーカーを活用して新たなサービスを創出するCGS (Crowd Generated Service) 事業として、現在も売上高の約半分及び利益の大半を占める主力サービスである官公庁等の入札情報を提供する入札情報速報サービス「NJSS (エヌジェス)」を2008年9月に開始いたしました。その後、2014年10月に幼稚園・保育園向けの写真販売管理システム「えんフォト」、2019年2月にクラウドワーカーを活用した電話受付代行サービス「fondesk」を開始。また2020年12月にはえんフォトとのシナジー創出を目的に出張撮影マッチングサービス「OurPhoto (アワーフォト)」を運営するOurPhoto株式会社の全株式を取得して完全子会社化し、現在の事業構成へと至っております。

「NJSS」・「fondesk」・「えんフォト」はいずれもSaaS (Software as a Service) であり、現在ではSaaS事業が当社グループの成長の基盤となっております。そのようなSaaS事業を取り巻く環境につきましては、富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2020年版」によると、国内SaaS市場規模は、2019年度において6,016億円となっており、2024年度には11,178億円に達すると予測されております。

当第1四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響による不透明な事業環境が継続いたしました。当社グループは、2019年5月14日に開示し、2021年5月14日、2022年5月13日に数値目標を修正した中期経営計画 (2020年3月期～2024年3月期) に基づき、各種施策に継続的に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,062,656千円(前年同期比14.8%増)、EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額(以下同様))は△27,481千円(前年同期は37,154千円)、営業損失は47,128千円(前年同期は20,110千円の営業利益)、経常損失は40,191千円(前年同期は30,665千円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は47,227千円(前年同期は9,980千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。また、NJSS、えんフォト、fondeskといったSaaSのARR(年間経常収益)を合計した全社ARRは30億円を超え成長基調を継続しております。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

事業別	前連結会計年度第1四半期 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当連結会計年度第1四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		売上高 前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
CGS事業	671	72.5	815	76.8	21.5
NJSS	467	50.6	552	52.0	18.1
fondesk	102	11.1	136	12.9	33.7
フォト	101	10.9	126	11.9	24.9
その他	—	—	—	—	—
BPO事業	247	26.7	239	22.5	△3.1
クラウドソーシング事業	7	0.8	7	0.7	4.7
合計	925	100.0	1,062	100.0	14.8

① CGS事業 NJSS

CGS事業の主力SaaSである「NJSS」については、「ARPU(一件当たり日割り売上高)と有料契約件数の最適化を図ることで将来に渡る売上高を拡大する」という方針に基づき各種施策を展開した結果、ARPUは1,195円と前連結会計年度から微減いたしました。有料契約件数は営業プロセスの最適化などの効果で解約数を抑えつつ新規契約を着実に獲得することができたことから、2022年6月末時点で4,968件と、2022年3月末比で264件増加いたしました。

また、カスタマーサクセスの強化により、有料契約件数をベースにした12ヶ月平均の解約率は1.45%(同2022年3月末1.48%)と前連結会計年度から1.4%台を維持し、ARR(年間経常収益)も約2億円と成長を続けております。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるCGS事業 NJSSの売上高は552,773千円(前年同期比18.1%増)となり、セグメントEBITDAは191,135千円(前年同期比0.4%減)、セグメント利益は188,986千円(前年同期比1.0%減)となりました。

NJSS KPI	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
売上高(百万円)	467	490	518	520	552	—	—	—
EBITDA(百万円)	191	178	188	145	191	—	—	—
有料契約件数	4,139	4,388	4,480	4,704	4,968	—	—	—
ARPU(円)	1,226	1,199	1,232	1,213	1,195	—	—	—
解約率(%)	1.55	1.48	1.46	1.48	1.45	—	—	—
LTV(千円)	2,153	2,229	2,337	2,220	2,255	—	—	—
ARR(百万円)	1,848	1,936	2,032	2,055	2,162	—	—	—

(注) 1. ARPU: 有料契約一件当たりの日割り売上高。

2. 解約率: 前月末有料契約件数に対する当月解約件数の割合。上表は12か月平均の数値。

3. LTV: 「顧客生涯価値」。ARPU×1/解約率×粗利率90%で算出。

4. ARR: 「年間定額収益」。各四半期サブスクリプション売上高に4を乗じて算出。

② CGS事業 fondesk

CGS事業におけるSaaSである「fondesk」は、マーケティング施策の実施など成長投資を行ったことによりコストが増加いたしました。新型コロナウイルスの影響によるリモートワークの社会浸透に伴いバックオフィス業務のDX化を支援するサービスの一つとしての認知をさらに拡大させ着実に需要を取り込んだことで、2022年6月末時点で有料契約件数が3,550件(2022年3月末比235件増加)と成長いたしました。また、UI・UX改善のためのシステム改修を行うなどユーザー利便性向上に継続的に取り組んできた結果、有料契約件数をベースにした12ヶ月平均の解約率は1.6%(同2022年3月末1.6%)と1.6%台を維持しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるCGS事業 fondeskの売上高は136,756千円(前年同期比33.7%増)となり、セグメントEBITDAは△4,043千円(前年同期は1,320千円)、セグメント損失は4,163千円(前年同期は1,194千円のセグメント利益)となりました。

fondesk KPI	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高(百万円)	102	110	120	121	136	-	-	-
EBITDA(百万円)	1	2	1	△78	△4	-	-	-
有料契約件数	2,552	2,814	3,105	3,315	3,550	-	-	-
ARPU(円)	13,361	13,074	12,920	12,230	12,840	-	-	-
解約率(%)	2.5	2.0	1.9	1.6	1.6	-	-	-
ARR(百万円)	-	-	481	486	547	-	-	-

- (注) 1. ARPU：有料契約一件当たりの月割り売上高。
 2. 解約率：前月末有料契約件数に対する当月解約件数の割合。上表は12か月平均の数値。
 3. ARR：「年間経常収益」。各四半期サブスクリプション売上高と各四半期リカーリング売上高の合計に4を乗じて算出。

③ CGS事業 フォト

CGS事業におけるSaaSである「えんフォト」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、新規契約獲得のための対面営業活動が制限されたものの、電話・メール・ビデオ会議システムを活用しながら着実に契約圏数を伸ばすことができました。また、2020年12月に完全子会社化した出張撮影マッチングサービス「OurPhoto(アワーフォト)」を運営するOurPhoto株式会社とのシナジー創出等に注力しつつ、サービス成長やユーザー利便性向上のための施策を着実に実施いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるCGS事業 フォトの売上高は126,336千円(前年同期比24.9%増)となり、セグメントEBITDAは△56,573千円(前年同期は△32,216千円)、セグメント損失は64,308千円(前年同期は39,788千円のセグメント損失)となりました。

フォト KPI	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高(百万円)	101	90	139	133	126	-	-	-
EBITDA(百万円)	△32	△54	△64	△67	△56	-	-	-
えんフォト 契約圏数	3,072	3,207	3,318	3,662	3,757	-	-	-
えんフォト 圏当たり売上高(円)	27,154	23,517	28,711	32,347	27,097	-	-	-
えんフォト ARR(百万円)	-	-	381	473	407	-	-	-
OurPhoto 撮影件数(件)	4,022	3,206	9,648	2,760	4,551	-	-	-

- (注) ARR：「年間経常収益」。各四半期リカーリング売上高に4を乗じて算出。

④ BPO事業

BPO事業におきましては、納品検収時期のずれなどの影響により売上高は前年同期比で若干減少しているものの、新型コロナウイルスの影響によるリモートワークの社会浸透を背景とする紙の電子化需要や電子帳簿保存法の改正の影響により引き合いが好調に推移いたしました。また、SaaS型データ自動化サービス「eas(イース/Entry Automation System)」においてマーケティング施策を実施するなど成長投資を行った結果、コストは増加いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるBPO事業の売上高は239,328千円(前年同期比3.1%減)となり、セグメントEBITDAは△7,242千円(前年同期は18,924千円)、セグメント損失は14,917千円(前年同期は12,460千円のセグメント利益)となりました。

BPO KPI	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
売上高(百万円)	247	297	253	282	239	-	-	-
EBITDA(百万円)	18	50	△20	△1	△7	-	-	-

⑤ クラウドソーシング事業

クラウドソーシング事業におきましては、「シュフティ」に登録されているクラウドワーカー数は2022年6月末時点で約44万人となっておりますが、CGSにリソースを供給するためのプラットフォームとして、ユーザー利便性向上のためのサービス改修や安定的運営のためのカスタマーサポート改善に継続的に取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるクラウドソーシング事業の売上高は7,462千円(前年同期比4.7%増)となり、セグメントEBITDAは△2,736千円(前年同期は△9,328千円)、セグメント損失は2,817千円(前年同期は9,409千円のセグメント損失)となりました。

クラウドソーシング KPI	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
売上高(百万円)	7	7	8	7	7	-	-	-
EBITDA(百万円)	△9	△7	△5	△8	△2	-	-	-

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産については、前連結会計年度末と比べ119,076千円減少し、4,219,412千円となりました。これは主に現金及び預金の減少219,226千円、売掛金の減少83,188千円、流動資産その他の増加56,886千円、無形固定資産その他の増加27,906千円、投資その他の資産の増加101,948千円、によるものです。

負債については、前連結会計年度末と比べ72,121千円減少し、2,137,981千円となりました。これは主に契約負債の増加185,320千円、買掛金の減少22,354千円、未払法人税等の減少22,280千円、賞与引当金の増加36,704千円、流動負債その他の減少238,827千円、長期借入金の減少10,070千円によるものです。

純資産については、前連結会計年度末と比べ46,954千円減少し、2,081,430千円となりました。これは利益剰余金の減少47,227千円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、2022年5月13日に決算短信で公表しました内容に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,805,136	2,585,910
売掛金	255,878	172,689
仕掛品	40,621	43,049
その他	197,231	254,118
貸倒引当金	△1,723	△2,183
流動資産合計	3,297,144	3,053,584
固定資産		
有形固定資産	140,310	142,045
無形固定資産		
のれん	191,881	184,774
その他	52,059	79,965
無形固定資産合計	243,940	264,740
投資その他の資産		
投資有価証券	321,534	433,685
その他	335,558	325,356
投資その他の資産合計	657,092	759,041
固定資産合計	1,041,343	1,165,827
資産合計	4,338,488	4,219,412
負債の部		
流動負債		
買掛金	132,093	109,739
1年内返済予定の長期借入金	41,810	41,300
未払法人税等	30,278	7,997
契約負債	1,193,561	1,378,882
賞与引当金	—	36,704
その他	759,383	520,556
流動負債合計	2,157,127	2,095,180
固定負債		
長期借入金	38,880	28,810
その他	14,095	13,991
固定負債合計	52,975	42,801
負債合計	2,210,102	2,137,981
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,033,456	1,033,723
資本剰余金	1,015,756	1,016,023
利益剰余金	79,107	31,880
自己株式	△275	△275
株主資本合計	2,128,044	2,081,352
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	341	78
その他の包括利益累計額合計	341	78
純資産合計	2,128,385	2,081,430
負債純資産合計	4,338,488	4,219,412

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	925,498	1,062,656
売上原価	271,995	289,741
売上総利益	653,502	772,915
販売費及び一般管理費	633,392	820,044
営業利益又は営業損失(△)	20,110	△47,128
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	—	1
ポイント収入額	99	12
補助金収入	18,082	7,400
その他	155	199
営業外収益合計	18,338	7,615
営業外費用		
支払利息	154	99
固定資産除却損	—	578
固定資産圧縮損	7,628	—
営業外費用合計	7,783	678
経常利益又は経常損失(△)	30,665	△40,191
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	30,665	△40,191
法人税、住民税及び事業税	28,369	2,644
法人税等調整額	12,276	4,390
法人税等合計	40,646	7,035
四半期純損失(△)	△9,980	△47,227
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△9,980	△47,227

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△9,980	△47,227
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△262
その他の包括利益合計	—	△262
四半期包括利益	△9,980	△47,489
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△9,980	△47,489

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							調整額 (注)1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2.
	CGS事業 NJSS	CGS事業 fondesk	CGS事業 フォト	CGS事業 その他	BPO事業	クラウド ソーシング 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	467,903	102,299	101,130	—	247,036	7,128	925,498	—	925,498
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	520	2,668	3,188	△3,188	—
計	467,903	102,299	101,130	—	247,556	9,796	928,686	△3,188	925,498
セグメント利 益又は損失 (△)	190,907	1,194	△39,788	△1,931	12,460	△9,409	153,432	△133,321	20,110

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△133,321千円は、セグメント間取引消去22,985千円、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に販売費及び一般管理費)△156,307千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							調整額 (注)1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2.
	CGS事業 NJSS	CGS事業 fondesk	CGS事業 フォト	CGS事業 その他	BPO事業	クラウド ソーシング 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	552,773	136,756	126,336	—	239,328	7,462	1,062,656	—	1,062,656
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	3,620	3,620	△3,620	—
計	552,773	136,756	126,336	—	239,328	11,082	1,066,277	△3,620	1,062,656
セグメント利 益又は損失 (△)	188,986	△4,163	△64,308	△10,856	△14,917	△2,817	91,924	△139,052	△47,128

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△139,052千円は、セグメント間取引消去28千円、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に販売費及び一般管理費)△139,081千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。